

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73211	2	後期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	在宅看護援助論 I (健康生活援助) (Health Promotion of Home Care Nursing I)				
担当教員名	清水 準一／川村 牧子				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要 自宅等の生活の場で療養している小児から高齢者、及びその家族の健康生活の実態と、健康生活を支援する社会システムや法制度について学ぶとともに、在宅看護の基本的考え方や対象特性、看護方法の特徴について学習する。</p> <p>到達目標 ①生活の場で療養生活を送る人とその家族の健康生活の実態について説明できる。 ②生活の場での療養生活を支える社会システムや法制度について説明できる。 ③在宅看護の基本理念、及び対象特性や看護方法の特徴を説明できる。 ④在宅看護における保健・医療・福祉の連携・協働について理解し、看護の役割と課題について説明できる。 ⑤問題を抱えた家族のアセスメント方法や基礎的な介入方法を説明できる。 ⑥生活の場で療養している人の発達課題や健康課題の特性に応じた在宅看護方法について説明できる。</p>					
準備学習等					
<p>1. 在宅看護では、在宅療養者とその家族を対象としており、その年齢層や疾患・障がいも様々である。対象の生活の場は比較的身近な場所にあり、通学などの機会に周囲の人々やサービスを提供する事業所などにも関心を持ち興味や疑問をもっておくことが望ましい。また社会保障制度は定期的に改定されることから、報道や行政機関のサイトの情報などにも関心に向け、情報収集を行うことが望ましい。</p> <p>2. 各回の事前課題を示すので、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>					
成績評価の方法	小テスト 20%、提出課題 10%、定期試験 70%で評価する。				
テキスト	秋山正子他, 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版」, 医学書院, 2017				

参考図書	<p>鈴木和子他、家族看護学 理論と実践 第4版、日本看護協会出版会、2012</p> <p>秋山正子、つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア、医学書院、2016</p> <p>宇都宮宏子編著、退院支援実践ナビ、医学書院、2011</p> <p>市原美穂、ホームホスピス「かあさんの家」のつくり方、木星舎、2011</p> <p>諏訪さゆり、認知症訪問看護、中央法規、2015</p> <p>財団法人厚生労働統計協会、国民衛生の動向 2018/2019</p> <p>財団法人厚生労働統計協会、国民の福祉と介護の動向 2018/2019</p>
備考	<p>①本科目の単位取得は、老年・在宅看護学実習の履修前提条件である。</p> <p>②各教員のオフィスアワーについては、デスクネットを参照してください。</p>
授 業 計 画	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>在宅看護援助論Ⅰのガイダンス、在宅看護の基本理念、対象特性、看護方法の特徴</p> <p>在宅療養者と家族の生活を支える社会保障制度：介護保険制度を中心に</p> <p>在宅で療養生活している高齢者と家族への看護</p> <p>事例演習：在宅で療養している高齢者と家族への看護</p> <p>地域包括ケア：ケアマネジメントと他職種や諸機関との連携協働</p> <p>地域包括ケアにおける看護の継続性（退院支援、外来看護）</p> <p>家族看護の基礎①（家族看護理論と日本における家族の状況）</p> <p>家族看護の基礎②（家族アセスメントと介入方法）</p> <p>事例演習：問題を抱えた家族に対する看護介入①</p> <p>事例演習：問題を抱えた家族に対する看護介入②</p> <p>在宅看護での観察・情報収集・在宅での環境を活かした支援方法</p> <p>在宅看護における医療処置・管理と看護の方法</p> <p>演習：在宅における医療処置・管理と看護</p> <p>在宅看護におけるコミュニケーションと意思決定支援</p> <p>演習：在宅療養者へのコミュニケーション支援の方法</p>